

新パナマ運河 より良い航路

環境—総括

パナマ運河拡張計画

主要事項	
計画区域	<ul style="list-style-type: none"> ・パナマ運河管理区域内 ・新たな湖やダム建設を必要としない。 ・地域住民に立ち退きを要求したり、作物生産地域に影響を与えたりしない。 ・以前の運河計画（1914年の運河、1939年の第三閘門設備の建設、ゲイラードカットの拡幅、定期的な浚渫と現在進められている近代化計画）に使用されていた区域。
水への影響	<p>ガツン及びアラフエラ湖（パナマ市及びコロン市用の飲料水の主要水源）は淡水の状態を維持する。ACPは新閘門（貯水槽）に水を節約するための効果的手段を導入する。住民への飲料水の供給は継続して維持される。浚渫作業時に一時的に水が濁ったり、固形物質が浮遊し、一部地域に影響を与える可能性がある。</p>
動植物への影響	<p>計画は主要山林、保護区又は科学的な重要性を持つ地域には影響を与えない。指定外の一般の森林は影響を受けるかも知れないが、生物多様性を有するその他の地区を保護したり、原生種の植林を実施することで相殺することが可能である。計画は存在が確認できているすべての野生生物の生存も脅かすものではなく、計画着手前に野生生物を救済する手段が講じられる。</p>
社会的影響	<p>この計画に携わる7,000人の直接雇用も含め、35,000～45,000人の雇用が創出されることが見込まれる。又、海運サービスクラスターからもより多くの雇用が創出されることが見込まれる。建設中、計画区域周辺の住民に交通や騒音等の面で一時的に影響を与えることが予想される。ガツン湖の（水面）上昇により被るインフラへの被害は適宜軽減されるだろう。</p>
考古学や古生物学的資源への影響	<p>ACPは3度にわたり事前調査を行い、保護されるべきプレ・コロンビア期の遺跡及びその他の歴史的な遺跡の位置を確認した。建設期間中、これらの遺跡に対する破壊防止の手段が講じられるであろう。</p>
世界の気候と運河拡張計画	<p>拡張計画の実施により、二酸化炭素の排出を削減させることで世界の気候（温暖化抑止）にプラスの影響を与えるであろう。それによりパナマ運河ルートへの需要はさらに高まるだろう。その根拠は、パナマ運河ルートは他のルートと比較して貨物のトン当たりの使用燃料の量を軽減できることにある。ACPと環境局（ANAM）は現在、この拡張計画のクリーン開発メカニズム（CDM）の排出削減認証への適用を検討中である。</p>